

平成 27 年度 発達障害の可能性のある児童生徒等に対する早期・継続支援事業
 (発達障害早期支援研究事業)
 成果報告書 (概要版)

実施機関名 (大田原市教育委員会)

1. テーマ

MIM (特殊音節に対する多層指導モデル) を中心とした学習障害等の困難を抱える児童の早期発見、早期支援体制づくりとユニバーサルデザインの授業づくりの推進

2. 問題意識・提案背景

文部科学省より平成 19・20 年度「発達障害早期総合支援モデル事業」の委託を受け、5 歳児健診や幼保小の連携、教職員の資質向上等を通して、発達障害の早期発見、早期支援の体制を構築した。平成 21 年度より市単独事業として就学相談体制の整備、年長児巡回相談の実施等、改善を重ねている。早期支援体制は徐々に整備されているが、「愛着障害」と「学習障害」への対応が課題となっており、平成 25 年度は「学習障害等支援モデル事業」に取り組み、「学習障害」の課題が広範囲であることが明確となった。平成 26 年度、西原小学校、金丸小学校を研究校として指定するとともに、市内全小中学校でもユニバーサルデザインの授業づくりに取り組みとともに、全小学校で MIM の指導を実施した。1 年を通して、小規模校での取組は進んできているが、大規模校では組織体制を作って取り組む難しさが見えた。平成 27 年度は中大規模校の組織体制づくりを目指し、応募した。

3. 指定校について

(小学校)

指定校名：大田原市立西原小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	150	5	131	4	145	4	150	4	161	5	163	5
特別支援学級	1	1	0		5		5	1	5		6	2
通級による指導の対象者数	0		1		4		8		2		3	
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	2	40	2	11	0	2	10	1	18	87	

指定校名：大田原市立金丸小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	22	1	14	1	7	1	15	1	14	1	16	1
特別支援学級	0		1		1		2		1	1	1	1
通級による指導の対象者数	0		0		1		0		0		0	
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	8	1	1	0	1	3	0	6	22	

4. 指定校における取組概要

①目的・目標

学習障害等学習に困難を抱える児童の早期発見と早期支援体制を構築する。

②学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒の明確化

- (1) MIM-PMテスト、「読み書きスクリーニング」「読み書きに関するチェックリスト」（開発資料）による学習に困難がある児童の早期発見の工夫
- (2) 発達障害支援アドバイザーやスクールカウンセラーにより実施されたWISC-IVを活用した児童の特性把握

③学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒に対する支援内容

・授業（一斉指導）における指導方法の工夫内容

- (1) 小学校低学年におけるMIMによる特殊音節の指導方法の工夫
 - (2) 発問や指示の明確化、学び合いの位置づけ、振り返りの重視等によるユニバーサルデザインの授業づくりの推進
 - (3) 研究授業の公開を通じたユニバーサルデザインの授業の啓発
 - (4) 通級指導教室担当者の通常学級担任との連携による指導の工夫（西原小のみ）
- ・放課後補充指導等の個別の指導における指導方法の工夫内容
- (1) 朝の学習における児童の課題に沿った習熟度別学習方法の工夫
 - (2) MIMカードを用いた特殊音節の個別指導の実施
 - (3) タブレットパソコン等ICTを活用したデジジー等の支援ソフトによる個別学習の工夫
 - (4) 通級指導教室を活用した学習障害児指導方法の工夫（西原小のみ）
 - (5) 全職員で異学年集団を活用した支援の場の設定（金丸小のみ）

④学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒に対する支援内容の妥当性の評価手法

- (1) 月1回のMIM-PMテストの実施と「個別の配慮計画」の活用
- (2) 複数のアセスメントを活用した保護者への支援方法の説明等による保護者との連携の工夫
- (3) 複数のアセスメントをもとにした発達障害支援アドバイザー、スクールカウンセラー、通級指導担当者（西原小のみ）と連携した支援内容の検討

5. 主な成果

本市では、指定校を中心に全校で本事業に取り組んできた。指定校の取組と同様またはそれ以上の取組を行う学校も数校あり、相乗効果が見られた。主な成果は以下のとおりである。

(1) 教職員の意識の変容

- ア. 通常学級における一斉指導では、教師が気づいている以上に学習が困難な児童生徒がおり、授業のユニバーサルデザイン化と個別支援の必要性への意識が高まっている。（小中学校）
- イ. MIMのアセスメントやWISC-IVにより、流暢に読めていない児童の実態と背景を学級担任が明確に把握することができ、早期支援の必要性を明確に感じるようになってきている。（小学校）
- ウ. 支援を学級担任と支援員で行うものであるという認識から学校全体で取り組

むものという意識へ変わってきている学校が増えた。

(2) 通常学級での授業のユニバーサルデザイン化の推進

- ア. 児童が学習に集中しやすい教室環境と授業の見通しを示した授業づくりは指定校だけでなく、ほとんどの学校で進めている。
- イ. ペア、グループ、自由学び合い等共有化の工夫を多くの学校が行っている。
- ウ. 電子黒板、タブレットパソコン等を用いた視覚的支援の工夫が多くの学校で見られる。
- エ. 全員の児童が取り組みやすいねらいと課題の焦点化を意識した授業が行われるようになった。(研究指定校)
- オ. 終末でどんな能力を使って学んだかも含めて振り返りを行うようになってきている。(研究指定校)

(3) 学校の実態に合った補充指導場面の推進

- ア. 小規模校の金丸小学校では、朝の学習において児童の課題に沿った支援を行い、ICTを活用することで効果が出ている児童がいる。
- イ. 小規模校の金丸小学校では、予備時数を補充学習の時間に位置づけ、全職員体制で大学生ボランティアも活用した学習支援を行うとともに、内容によっては異学年集団による学び合いをすることで意欲的に取り組む場とすることができてきた。
- ウ. 大規模校の西原小学校では、朝の学習において、児童の課題に沿った支援を行うための日課の変更が行われた。
- エ. 西原小学校の通級指導教室では、発達障害支援アドバイザーBの配置により、支援方法の検討、通常学級の授業の参観及び学級担任への助言をすることが可能となり、通級指導の内容を通常学級で生かすことが可能となった。

6. 今後の課題と対応

(1) 課題

- ア. 授業における課題の焦点化と全員参加の共有化の定着
- イ. 授業改善に取り組めない中堅以上の教員への働きかけ
- ウ. 3次支援である通級指導への各学校ごとのあいまいな流れ
- エ. 本市のICT環境下における効果的支援ソフトの導入

(2) 対応

- ア. ユニバーサルデザインの授業づくり推進の継続(研修・研究校)
- イ. 発達障害支援アドバイザー派遣の市単独事業化(予算化)
- ウ. 通級指導に関する市統一ガイドラインの策定(専門家との連携)
- エ. 効果的なソフト情報の収集と紹介(情報の一元化)

7. 問い合わせ先

組織名：大田原市

- (1) 担当部署 大田原市教育委員会学校教育課
- (2) 所在地 栃木県大田原市湯津上 5-1081
- (3) 電話番号 0287-98-7113
- (4) FAX 番号 0287-98-7123
- (5) メールアドレス k.yano@city.ohawara.tochigi.jp

